

令和3年 11月 17日
学校法人 獨協学園
獨協医科大学

新型コロナワクチン追加接種（3回目接種）希望者の特徴

獨協医科大学精神神経医学講座（主任教授 下田和孝）の菅原典夫准教授らの研究チームは、新型コロナワクチンの追加接種（3回目接種）希望者のワクチンに対する認識などの特徴について、医学生を対象とする質問票調査を行いました。現在、我が国において当初から計画されていた2回の接種を完了した国民の割合が増加し続ける一方、2回目の新型コロナワクチン接種を受けたにも関わらず感染してしまうブレイクスルー感染者やデルタ株の出現といった状況を受け、追加接種の実施が喫緊の課題になっています。

医学生は臨床実習において、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に罹患したヒトと接触する可能性があり、自らの健康を守るためだけでなく、病院で治療を受ける人々を守るためにも高い水準でのワクチン接種率が求められています。また、医学生や医療従事者のワクチン接種に対する姿勢は、一般集団におけるワクチンの受容にも影響すると考えられており、医学生の新型コロナワクチンに対する姿勢の把握が求められています。これまで、海外における医学生の新型コロナワクチンに対する姿勢については幾つかの報告がありますが、日本は世界的にみてワクチン一般に対する信頼感が低い国として知られており、我が国独自の調査が必要な状況でした。本学においては、医学生は4月から5月にかけて新型コロナワクチンの接種（2回目まで）を実施しており、本研究では2021年7月に獨協医科大学保健センターが医学生を対象に行った質問票調査（回収率66.8%）の結果をもとに検討を行っています。

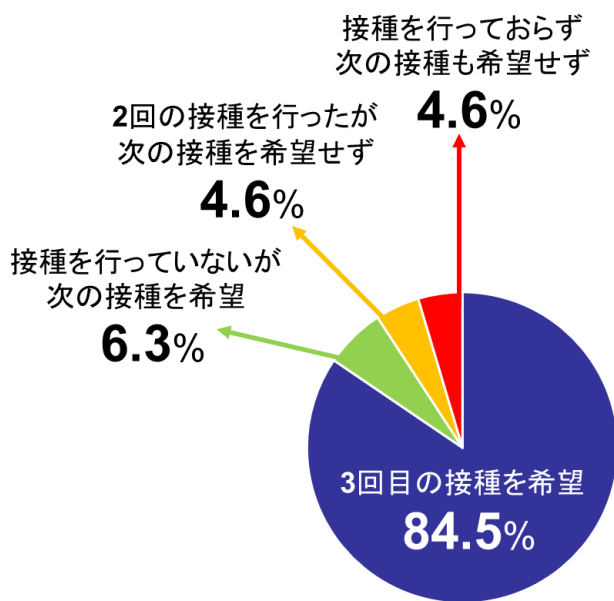


図1 将来における接種意思の割合

その結果、84.5%の学生が、3回目となる新型コロナワクチンの接種について受けると思うと回答しました(図1)。また、多くの学生(75.6%)が新型コロナワクチンによる感染予防効果を十分なものであると回答した一方、67.3%の学生が免疫効果の持続に不安を持っていることが明らかになりました。加えて、無視できない数の学生(46.0%)が新型コロナワクチン開発の時間が短すぎると感じていることが示されました。また、追加接種(3回目接種)を希望する学生の特徴として、学年が高いこと、一般的にワクチン接種に対して肯定的であること、新型コロナワクチンの感染予防効果を十分なものと思っていること、新型コロナワクチン開発の時間が短いとは感じていないこと、感染蔓延前のような生活を送りたいと思っていること、そして、免疫効果の持続に不安を持っていることが明らかにされました。

COVID-19の拡大を終息させるためには、集団免疫効果を発揮できる水準の高い新型コロナワクチン接種率が求められています。そのため、本研究によって明らかにされた追加接種希望者の特徴であるワクチンへの信頼感、行動制限の解除との兼ね合い、免疫効果の持続に対する懸念についての正しい情報提供が、接種率の向上に役立つ可能性があると考えられます。なお、本研究をまとめた論文は、スイスの国際医学誌「Vaccines」(インパクトファクター:4.422)に掲載されています。

書誌情報および本件取材についての問い合わせ先は、以下の通りです。

論文: Attitudes of medical students toward COVID-19 vaccination: Who is willing to receive a third dose of the vaccine? Vaccines (Basel). 9: 1295. (2021)

著者: Norio Sugawara, Norio Yasui-Furukori, Atsuhito Fukushima, Kazutaka Shimoda

【研究チーム】

獨協医科大学精神神経医学講座: 下田和孝主任教授、古郡規雄准教授、菅原典夫准教授

獨協医科大学感染制御・臨床検査医学講座: 福島篤仁講師

獨協医科大学保健センター: 菅原典夫准教授

本件に関するお問い合わせ先

獨協医科大学精神神経医学講座 菅原 典夫 (すがわら のりお)

電話 0282-86-1111(代表) e-mail: nsuga3@dokkyomed.ac.jp